

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1171700261		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	このすけアセンターそよ風		
所在地	埼玉県鴻巣市天神4-32-1		
自己評価作成日	令和5年11月25日	評価結果市町村受理日	令和6年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様一人ひとりのその人らしさを大切にしている。何気なく発言された要望に耳を傾け、時間だから何かをするのではなく、時をゆったりと気の合う仲間とおしゃべりや家事をして頂きながら過ごされている。コロナ禍により家族会が開催できなくなってしまう為、家族様への連絡は怠らないようにし、信頼関係を築けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・「入所者に安心して過ごしていただく」ことをすべての基本に、感染症予防対策をしっかり行いながら、季節の行事などを例年通り実施するなど、入居者への支援に取り組まれている。現在、家族会は中止されているが、家族とのコミュニケーションを大切に、「そよ風だより」や運営推進会議や電話での意見交換を通して、サービスの向上を図られている。
 ・運営推進会議の開催については、事業所からは活動報告やヒヤリハット報告などが議題として出され、参加者からも地域の高齢者の状況や防災についての報告、4年ぶりに実施の夏祭りに関することなどが出され、運営にも活かされている。
 ・目標達成計画の達成状況についても、令和4年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたが、災害対策での全職員の訓練参加を目標に掲げ、シフトを調整して参加ができたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	職員全員で考えた理念を共有し、住み慣れた地域で一人一人が安心して生活が送れるようにしている。	日頃のケアの中で、職員自身が気持ちにゆとりをもって入居者に寄り添い、楽しく落ち着いて過ごされるよう理念の考えが共有されている。新しく入職した職員にも経験豊富な職員が見本となり、入居者一人ひとりへの接し方を学ぶよう努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭り等で地域と関わる機会を作り利用者が地域住民と交流できるような環境作りをしていたが、コロナ禍以降の感染症対策により、交流の機会が減ってしまった。	コロナ禍以降の感染症予防対策により、自粛を余儀なくされていたが、ここに来て、また、近隣のドラッグストアに買い物に出かけたり、近所の方と挨拶を交わすなど、感染状況を見ながらつきあいを広げられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市役所、地域包括支援センターを通じこうのすケアセンターそよ風の存在意義を伝え、いつでもどんなことでも相談に応じることを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現況報告やヒヤリハット、事故報告などを行ない、参加者の方に必ずご意見を頂き、より良いサービスの提供に活かしている。	運営推進会議は、定期的で開催され、事業所からは活動報告やヒヤリハット報告などが議題として出されている。参加者の自治会長や民生委員から、地域の高齢者の状況や防災についての報告、4年ぶりに実施の夏祭りに関することなどの情報を得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	センター長を中心に市の担当窓口へ赴き、相談や書類申請を行ったり、電話やメールにて連絡を取ったりし、協力関係を築けるよう努めている。	市担当者には運営推進会議に参加をいただき、感染症予防対策や活動について情報が寄せられている。日頃から電話やメールで介護保険の運用についてや、新しく入居される方の情報を送っていただくなど良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月委員会を開き会議の内容を共有し、また研修を通し身体拘束についての理解を深め、正しく支援できるよう取り組んでいる。スピーチロック(言葉による抑制)が課題となっているので、職員同士声を掛け合い、気を付けている。	「身体拘束はしない」との方針のもと、常に正しい支援ができていないか職員同士が声を出して気配りがなされている。やむをえない状況でも職員が冷静に対応し、マニュアルに基づいた行動がとられ、入居者の安心を第一に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは、不適切な介護とはどんなことなのかを学び、研修を通してされる側やする側の心理を理解し、虐待をしない・させない・見逃さない環境作りをするにはどうしたらよいか、話し合いを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修、勉強会を通し、統一した知識を職員は身につけている。成年後見人制度にも柔軟に対応し、管理者、計画作成担当者が必要に応じて対応・支援を行うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧な説明を心掛け、家族様からの質問も伺いながら、入居に際しての不安を取り除けるような対応をしている。料金、緊急時の対応(延命処置など)についても説明、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において意見、要望を伝えてもらう機会を設けている。また、随時利用者様の様子を家族様へ電話にて報告を行い、その際に意見・要望を伺えるよう配慮し、利用者様、家族様からの意見、要望はその都度職員に周知している。	「外に行きたい」、「おいしい物が食べたい」など入居者からの要望には、イベント時などで対応されている。家族からは衣類の入れ替えなどの日常生活のことや、居室での面会のこと、食事メニューなどの提案や要望が出されている。	家族と職員、家族同士、他の入居者などのコミュニケーションを図れるよう、これまで実施されていた家族会が再開されることに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時個別に、職員の意見や現状、介護に対しての不安などを聞き取り、その結果サービスの質の向上につなげられるよう取り組んでいる。	季節ごとのイベントを担当職員から提案され、検討し実行されている。現場ではケア方法などをチームとして職員同士で教え合い、わからないことはその場で聴き、一緒に考えながら、スキルアップに繋げ、運営にも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を定期的に行うようにし、日頃から声掛けをし、会話を大事に職員がストレス、不安を感じないような働きやすい職場づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、全体会議、ミーティングを通し職員が成長できる場を作る。日々の業務の中で適切なケアが出来るよう個人に合わせた指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが5類に移行された後も継続して感染症対策を行っており、交流会や相互訪問の機会は減っているが、リモート会議にて他施設の取り組みを聞き、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との会話を通して意見を聞き、現状を細かく観察し、また家族様やケアマネジャーからも詳しくお話を伺い、不安の元を取り除いて安心して生活を送って頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や見学、申し込み時にゆっくりお話を伺い、困っていること、不安なことに対してどんな支援ができるか提示し、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様が必要としていることを見分け、場面に応じて他事業所のサービスにつながる対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を尊重することを優先し、利用者様の身近で生活を支援することで信頼関係を築くことに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や書類の受け渡しの際に生活状況を伝えと共に、家族様から見た本人様、本人様へのお気持ち等をお聞きして、利用者様が生活しやすくなるよう関係づくりに力を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前近所に住まれていた方や友人の方からの電話や手紙などが届いた際は、家族様に連絡をし確認をしたうえで、本人様と交流をして頂いている。	友人との電話や手紙のやり取りは継続して支援がなされている。また、事業所内では昔の歌を歌ったり、懐かしい食べ物を話題にしたり、DVDを視て楽しめるなど、これまでのことを忘れないように、馴染みの関係の継続に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話の仲介をしたり、場合によっては席の移動を試みたりして、一人ひとりの交流を見守りながら、孤立することがないよう安心できる環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族様から相談があれば親身に対応している。また、本人様が他の施設へ移動された場合においては、移動先の施設職員と連絡を取るなどし、本人様の生活の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話をし、コミュニケーションをとり、何でも伝えやすい関係づくりに努めている。会話が難しい場合や思いを伝えられない場合は、家族様にこれまでの生活の様子を伺うなどし、暮らし方を検討している。	入居者個々に型にはめない自由でゆったりした生活を継続していただき、信頼関係を築きながら、思いや意向の把握に努められている。会話が難しいときはしぐさや表情から気持ちを読み取り、家族から様子を聴くなどの対応もなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様との会話、ケアマネジャーからの情報により、生活歴、これまでの環境を把握し、大きな変化がなく、生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズム、どんなことに興味があるかを把握し、またその日その日での心身状態の変化に気付けるように、職員同士で情報を共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1人1人のADL、IADLを理解し、要望、意見を取り入れながらカンファレンスを行い、現状に合った計画を作成している。	職員全員でカンファレンスを行い、できること、できないことを見極め、入居者・家族の要望も取り入れ・医師・看護師の意見も参考にケアプランが作成されている。入居者本人の言葉で表記され、わかりやすい具体的な支援項目が記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々気になる事は口頭で申し送りや記録に残し、情報共有して小さな気づきを集め、随時ケアの方法を見直して利用者様が安心して生活を送れるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な状況にも焦らず、状況、要望に対して柔軟な対応を心掛けている。必要に応じてどんなサービスを提供できるかその都度検討している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会長と運営推進会議にて意見交換を行っているが、コロナ禍以降の感染症対策により、利用者様と地域社会との関りが難しくなってしまった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者様、家族様が希望されている所とし、定期受診は家族様にご協力いただくが、難しい場合は職員が支援を行なう。現状報告の為の同行や、手紙を渡すなどし、医療関係者との連携を図っている。	入居者・家族の希望を尊重し、かかりつけ医への受診は家族の協力で行われ、状態によっては職員が同行されている。受診後の医師からの情報は申し送りノートに記載され、職員はその内容を確認してから業務に入るよう努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や事故発生時には、施設内看護師、訪問看護師に相談し、家族様や主治医に連絡するなど、その都度適切な対応が出来る様に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員や医療関係者、家族様とこまめに情報交換を行い、状況把握に努めている。受診や入院も往診医療機関に行くことが多いので、月2回の往診にて直接主治医、看護師と話し、利用者様の生活状況も細かく伝えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも重度化した場合についての希望を伺い、生活の中で変化がみられた際にはその都度本人様をはじめ、家族様と話し合い、医師、訪問看護師と連携をし、情報共有を行い、状態の変化に職員全員で取り組んでいる。	重度化や終末期に際しては、職員同士が情報を共有し合い、更に看取りにあたっては、マニュアルを基に、職員間での研修も実施されている。状況について常に家族とも話し合い、看取りのケアプランを作成し、安心した対応がとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受け、マニュアルを作成することで適切な応急処置を職員が出来る様に努めている。1階事務所にAEDが設置しており、いざという時は使用できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行い、内容も色々な想定をし、どんな災害にも対応できるよう消防署からの指導を受けながら避難訓練を行っている。職員全員がどんな状況でも対応できるよう、訓練には毎回違う職員が参加できるように工夫している。	シフトを調整して全職員が訓練に参加できるよう工夫がなされている。人命救助を最優先に、水害や火災などそれぞれの避難方法も明確にされ、運営推進会議でも避難時の入居者への見守りなどについて議題にあげられ、話し合われている。	人命救助を最優先に、どんな状況でも対応できるよう災害対策が取られています。災害発生は想定できないことから、災害時に発生する様々な状況、例えば停電時にどう行動するのかなど、対策を確認し合う取り組みに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な声掛けを心掛け、常に尊敬の思いで対応させて頂いている。また、プライバシーを侵害しないよう利用者様に関する話を大きな声でしない等気を付けている。	入室時のノックや声掛け、私物の片付けなど、基本的なプライバシーは守られている。日常生活の中であくまでも入居者のペースを大切にされ、朝の起床や夜の就寝時間もそれぞれの習慣に合わせるなど、一人ひとりが尊重されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも言える環境作りをし、意思疎通が難しい利用者様にはより多く接し、視線を合わせ、表情などで思いをくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活リズムを把握したうえで、その日の気分によって何をして過ごしたいのか、出来る限り希望に沿えるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色や形など、衣類の調達は家族様にご協力いただいている。ヘアーカット(訪問理美容)の希望にも応じ、本人様のお話を聞きながら対応していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材やメニューで季節を感じていただいたり、何が食べたいか希望を伺って献立に取り入れたり、食事の時間が楽しくなるように努めている。	食事作りは職員が中心に行われ、鍋物などのアイデアも出され、入居者にも喜ばれている。入居者それぞれに合わせた食事形態や好き嫌いにも対応され、常に食べやすい状態で提供し、食事を楽しめるよう工夫と支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人がどのくらい摂取できているかを記録し、摂取量が少ない方は主治医に相談し、栄養状態や身体状態の確認をしたり、本人様、家族様に好みを伺い、食べやすいもの飲みやすいものを摂取していただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事中や食後の口腔ケア(歯磨きなど)の様子を見て、異常に気付けるよう努めている。訪問歯科と連携をし、口腔にかかわる小さなことも共有し、健康な口腔内保持を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に、定時のトイレ誘導や声掛けを行い、1人1人の排泄パターンを把握し、オムツ対応とならないように、自立に向けた支援を行っている。	トイレ誘導の時間、排泄パターンを職員全員が理解し、トイレでの排泄時の支援もスムーズに行われている。特に誘導時の声掛けには気を配り、周りを常に見ながらプライバシーや羞恥心にも配慮した対応がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り毎日の排便確認を行い、職員間で情報共有をする。水分摂取や体操等で便秘予防をするとともに、加齢に伴い排便しにくい場合には主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は概ね決まっているが、温度を好みに調節したり、入浴剤や季節ごとにゆず、菖蒲を入れたりして入浴を楽しんでいただくよう努めている。お風呂が好きで、毎日入りたい、という方はできる限り対応できるよう努めている。	入居者や家族の希望にも出来るだけ応え、職員と1対1の個浴での支援が行われている。自立の入居者とは少し距離を置いて声掛け中心のケアがなされ、同性介助の希望にも入浴日を変更するなど柔軟な対応がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠が一番と考え、安眠できる環境作り、寝具、室温の調整をし、発汗等は巡視時に確認している。日中は体操などのレクリエーションをし、安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬担当者を決め、薬の管理には細心の注意、気配りをし、誤薬をしない、させないを徹底している。薬の変更の情報共有をし、服薬介助時は職員間で声出し確認をし、必ず職員二人で薬の飲み込みが出来たかまで確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を行う事で生きがい、役割を持って生活できる方に関しては、それが行えるよう支援している。また、日々取り組めることを見付け、楽しく生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以降、感染症対策を最優先とさせていただいている為、基本的には外出支援をしておりません。家族様との散歩や外出などは制限していませんので、お任せしている。	現状は感染症対策を優先させ、外に出ることへの支援が制限される中、家族との散歩や外出などは実施していただいている。外出の頻度を増やすことは重要視され、どうやって増やしていくかの検討が行われている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものは職員に伝えていただき、立替払いで職員が代わりに購入している。お金の所持や使用に関して差し支えなければ、支援の検討をさせていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望した時は電話連絡を行ない、電話や手紙、本人様への贈り物が届いたりした時も柔軟な対応をし、手紙やお礼の電話なども自由に出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるよう、季節に沿った置物などを飾ったり、手作業レクで作っていただき、ゆったりとした空間づくりを心掛けている。	入居者は共用空間に集まるが多く、話をしたり、洗濯物たたみなどの作業を行うなど、寛いで生活されている。安全面や健康面への気配りも行われ、換気などにも十分な注意を払い、また掃除専門スタッフに交じて入居者も手伝うなどの姿も見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事を摂る席は決まっているが、出来るだけ気の合う同士にし、時には席を変えるなど、誰とでも話せるように支援をしたり、ベンチ、ソファなどで自由に時間を過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物、お好きな物を自由に持ち込んでいただいている。利用者様が必要と仰る物は家族様へ連絡し、用意していただいている。	自宅で使われていた物、親しみのある物などを習慣や好みに合わせて居室に持ち込んでいただいている。居室での自由も確保され、好きな本を読まれたり、ラジオを聴いて楽しむなど、居心地よく暮らせるよう支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のない範囲で利用者様の行動を抑制せず、できること、やりたいことは自由にさせていただき、安全に生活を送っていただける様な環境作りを行なっている。		

(別紙4(2))

事業所名: こうのすケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 令和6年1月30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害発生は想定できないことから、災害時に発生する様々な状況、例えば停電時にどう行動するのかなど、対策を確認し合う必要がある	職員全員が災害時に混乱なく対応できるようにする	停電時の対応…非常電源の確認や懐中電灯、電池などの備品の場所の把握 災害時の備蓄品の確認…保管場所、物品の種類や数、消費期限の把握 以上を職員全員ができるよう周知する	12ヶ月
2	10	コロナ禍以降、それまで2か月ごとに開催されていた家族会が再開できておらず、家族様と職員、家族様同士、家族様と他の入居者様との交流の場が設けられていない	新型コロナウイルスなどの流行が収まっていないので、状況をみながら、感染症対策をしつつ家族会を開催する	感染症対策をすることを前提として、どのようにすれば安全に開催できるか話し合いを行ない、感染状況などの情報を収集し、時機をみて家族会の開催を検討、実行する	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。